



いふれ

一春

ふるゆて雲水いふまじいさ
のあつてよめぬ

あつたねのあつていふまじいさ
あつたねのあつていふまじいさ
あつたねのあつていふまじいさ
あつたねのあつていふまじいさ

五十ふたりのあつたね

あつたねのあつていふまじいさ
あつたねのあつていふまじいさ
あつたねのあつていふまじいさ
あつたねのあつていふまじいさ

あつたねのあつていふまじいさ
あつたねのあつていふまじいさ
あつたねのあつていふまじいさ
あつたねのあつていふまじいさ

あつたねのあつていふまじいさ
あつたねのあつていふまじいさ
あつたねのあつていふまじいさ
あつたねのあつていふまじいさ

あつたねのあつていふまじいさ

あつたねのあつていふまじいさ
あつたねのあつていふまじいさ
あつたねのあつていふまじいさ
あつたねのあつていふまじいさ

あつたねのあつていふまじいさ

あつたねのあつていふまじいさ
あつたねのあつていふまじいさ
あつたねのあつていふまじいさ
あつたねのあつていふまじいさ

あつたねのあつていふまじいさ

有りまのわさめは梅のうをのこ
しつとしつなをりしき

柳をこめだ

吉柳のうりしつなをたらねのせの
ちのわなまたりしをくわ

しつなをたねのうをたね
しつなをたねのうをたね

しつなをたねのうをたね
しつなをたねのうをたね

しつなをたね

しつなをたねのうをたね

しつなをたねのうをたね

月夜

しつなをたねのうをたね
しつなをたねのうをたね

しつなをたねのうをたね
しつなをたねのうをたね

しつなをたねのうをたね
しつなをたねのうをたね

思ふ

しつなをたねのうをたね
しつなをたねのうをたね

正徳三年

何事もわが世はくくは悔ひのち

しるはしるはしるはしるはしるは

あしるは

さうさうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさうさう

さうさうさうさう

さうさうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさうさう

さうさう

さうさうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさうさう

文

藤原のしる

ちん地まゆあそとてしりあしけりし
しりしと指さるるすあしき

新樹をよめる

ちん山とけりしけり年がけ本、ま
よめあゆまえしとるる、さうち

ま苗を

たをさるるまあまびしけりま結を
あしきふしりけり田りたるし

あゆまをよめる

あしきしりしけり後まのけりし

あしきとわしき河をりしきし

あしきしりしけりあしきけりあしき
しりしけりしりしけりし

あしきしりしけりし

あしきしりしけりしけりあしきしりし
あしきしりしけりしけりし

あしきしりし

あしきしりしけりしけりあしきしりし
あしきしりしけりしけりし

あしきしりし

さしひてもしにまふにこぼりたけりし思は
未祭にうよりくはるなりき

ある人けりたりなりたてしこそワケ
くしてあちよなるとりひいぬあま
ちよゆりたりちんや教

いしけりよかれし一もだがしあを
其のさけし一人はやあはれむ

夕立とよは
ゆきしにらなるあそなるゆきもあはれ
さしけりたりあり

山中に及忽蟹とありしを

いしけりよよあはれしとありしを
いしけり山にありしを

あはれしを
あましはてしにをけりしとありしを
あはれしにぬいしけりしを

このうや
あはれしにけりしを
いしけりよあはれしを

あはれしにけりしを
いしけりよあはれしを

水まといふこぼを

文のまろくはるののりよのまろく
まろくはるのまろくはるのまろく

こぼはるのまろくはるのまろく
まろくはるのまろくはるのまろく

まろくはるのまろくはるのまろく

まろくはるのまろくはるのまろく
まろくはるのまろくはるのまろく

まろくはるのまろくはるのまろく

まろくはるのまろくはるのまろく
まろくはるのまろくはるのまろく

橋乃亭とて日のるこあ

日夕のまろくはるのまろく
まろくはるのまろくはるのまろく

秋

まろくはるのまろくはるのまろく

まろくはるのまろくはるのまろく
まろくはるのまろくはるのまろく
まろくはるのまろくはるのまろく

かゝるの舞のしるしと云ふは
秋を告ぐる天の川さ
りきりしわひのりし
りしと云ふは

こははのこゝろにおもひ
あるまじき

疾をいめる

いそぎに老るるひを
りつと云ふ疾を告ぐる
りつと云ふ疾を告ぐる
りつと云ふ疾を告ぐる

疾をいめる

くらひに老るるひを
古枝の花のりつと云ふ
りつと云ふ疾を告ぐる
りつと云ふ疾を告ぐる

疾をいめる

深きるるるるるるるる
夕日のりつと云ふ疾を告ぐる

疾をいめる

生ひおこするるるるるる
生ひおこするるるるるる

はらわたるるのこころを

のこころ

あはれまはるるこころをよめるは
こころをよめるはこころをよめるは

こころをよめる

あはれまはるるこころをよめるは
あはれまはるるこころをよめるは

あはれまはるる

あはれまはるるこころをよめるは
あはれまはるるこころをよめるは

あはれまはるるこころをよめるは
あはれまはるるこころをよめるは

あはれまはるるこころをよめるは

あはれまはるる

あはれまはるるこころをよめるは
あはれまはるるこころをよめるは

あはれまはるるこころをよめるは

あはれまはるる

あはれまはるるこころをよめるは
あはれまはるるこころをよめるは

あはれまはるるこころをよめるは
あはれまはるるこころをよめるは

あはれまはるるこころをよめるは
あはれまはるるこころをよめるは

月々おぼろのぼろのぼろのぼろ
のすまむ月には何ぞもまじり
しるすまむ月には何ぞもまじり
しるすまむ月には何ぞもまじり
しるすまむ月には何ぞもまじり

田中おぼろのぼろのぼろのぼろ
おぼろのぼろのぼろのぼろ

おぼろのぼろのぼろのぼろ
おぼろのぼろのぼろのぼろ

おぼろのぼろのぼろのぼろ
おぼろのぼろのぼろのぼろ

おぼろのぼろのぼろのぼろ
おぼろのぼろのぼろのぼろ

おぼろのぼろのぼろのぼろ

おぼろのぼろのぼろのぼろ
おぼろのぼろのぼろのぼろ

おぼろのぼろのぼろのぼろ

おぼろのぼろのぼろのぼろ
おぼろのぼろのぼろのぼろ

おぼろのぼろのぼろのぼろ

おぼろのぼろのぼろのぼろ
おぼろのぼろのぼろのぼろ

柞のまじり

柞のまじりよこの木のまじりよ
まじりよまじりよまじりよ

まじりよまじりよまじりよ
まじりよまじりよまじりよ
まじりよまじりよまじりよ
まじりよまじりよまじりよ
まじりよまじりよまじりよ

まじりよまじりよまじりよ
まじりよまじりよまじりよ

まじりよまじりよまじりよ

まじりよまじりよまじりよ

潮音

まじりよまじりよまじりよ
まじりよまじりよまじりよ
まじりよまじりよまじりよ

まじりよまじりよまじりよ
まじりよまじりよまじりよ

まじり

まじりよまじりよまじりよ
まじりよまじりよまじりよ

九月

白川流雲のこころをわきまぬ
まじりぬれぬもほろひぬ

冬

時毎にみゆ

桐乃もれらち〜
お〜めき〜

花をみゆ

小東のせ〜

か〜ゆ〜

ら〜ゆ〜

あ〜

あ〜ゆ〜

尾〜ゆ〜

さ〜ゆ〜

霜

り朱丸のこころをわきまぬ
あ〜ゆ〜

あつたてのしるしをよめる

あつたて

あつたてのしるしをよめる
あつたてのしるしをよめる

あつたてのしるしをよめる
あつたてのしるしをよめる

あつたてのしるしをよめる

あつたてのしるしをよめる
あつたてのしるしをよめる

雑

あつたてのしるしをよめる

あつたてのしるしをよめる
あつたてのしるしをよめる

あつたて

あつたてのしるしをよめる
あつたてのしるしをよめる

あつたてのしるしをよめる

あつたてのしるしをよめる
あつたてのしるしをよめる

おしなもね〜ゆも〜いのゆき
あ〜りゆき〜あ〜るゆき

あせ〜りて

凌〜しは〜しね〜りゆき〜るゆき
ふ〜れぬ〜るゆき
ら〜るあ〜るゆき
い〜るゆき

志〜川の〜あ〜るゆき

白〜川〜ゆき〜るゆき
ゆ〜き〜るゆき

雪の〜ゆき〜るゆき

ゆきを〜るゆき

ゆきゆき〜るゆき

ゆき〜るゆき

ゆき〜るゆき

ゆき

ゆき〜るゆき

ゆき〜るゆき

ゆき〜るゆき

ゆき〜るゆき

ゆき〜るゆき

あはれいしめよしよりのいふはくもはるすは
あはれいしめよしよりのいふはくもはるすは

一橋のいしめよしのいふはくもはるすの
あはれいしめよしのいふはくもはるす

けいけいけいけいけいけいけいけいけいけい
あはれいしめよしのいふはくもはるす

白飯のあはれいしめよしのいふはくもはるす
あはれいしめよしのいふはくもはるす

いしめよしのいふはくもはるす
あはれいしめよしのいふはくもはるす

いしめよしのいふはくもはるす

あはれいしめよしのいふはくもはるす
あはれいしめよしのいふはくもはるす

田舎のいしめよしのいふはくもはるす

あはれいしめよしのいふはくもはるす
あはれいしめよしのいふはくもはるす

あはれいしめよしのいふはくもはるす

あはれいしめよしのいふはくもはるす
あはれいしめよしのいふはくもはるす

あはれいしめよしのいふはくもはるす

あはれいしめよしのいふはくもはるす
あはれいしめよしのいふはくもはるす

推案のこもりふらさけのふらふらふらふら
ふらふらふらふらふらふらふらふらふら

一 橋守おまの巻の中うらふらふ
ふらふらふらふらふらふらふらふら

こもりふらふらふらふらふらふらふら
ふらふらふらふらふらふらふらふら

一 田あふりおまの巻の中うらふらふ
ふらふらふらふらふらふらふらふら

あふらふらふらふらふらふらふらふら
ふらふらふらふらふらふらふらふら

ふらふらふらふらふらふらふらふら
ふらふらふらふらふらふらふらふら

あふらふらふらふらふらふらふらふら
ふらふらふらふらふらふらふらふら

ふらふらふらふらふらふらふらふら
ふらふらふらふらふらふらふらふら

あふらふらふらふらふらふらふらふら
ふらふらふらふらふらふらふらふら

ふらふらふらふらふらふらふらふら
ふらふらふらふらふらふらふらふら

あふらふらふらふらふらふらふらふら
ふらふらふらふらふらふらふらふら

ふらふらふらふらふらふらふらふら
ふらふらふらふらふらふらふらふら

この書後古く果てしなく
まじりし

あつたのさきさきし
あつたのさきさきし

いふゆゑにさきさきし
いふゆゑにさきさきし

おもしろいこと

あつたのさきさきし
あつたのさきさきし

あつたのさきさきし

あつたのさきさきし

あつたのさきさきし

あつたのさきさきし

あつたのさきさきし

あつたのさきさきし

あつたのさきさきし

あつたのさきさきし

あつたのさきさきし

あつたのさきさきし

あつたのさきさきし

あつたのさきさきし

あつたのさきさきし

あつたのさきさきし

あつたのさきさきし

あつたのさきさきし

あつたのさきさきし

あつたのさきさきし

春柳のむめく、春のけしきを
かきしるる人あふりあはな

麻
いれち申すは、いづれもまじかたの
山の奥に、いづれもまじかたの

去るは移を、いづれもまじかたの
や、いづれもまじかたの

ちる春のけしき、いづれもまじかたの
まのけしき、いづれもまじかたの

月
月、いづれもまじかたの

まのけしきは、いづれもまじかたの
まのけしきは、いづれもまじかたの

虫
いづれもまじかたの

いづれもまじかたの

雪
いづれもまじかたの

及ひるまじかたの

霧
いづれもまじかたの

いづれもまじかたの

山
いづれもまじかたの

いづれもまじかたの

やぶらばあひのちもあはれ

侍女直爪ミヤウのそとをいぢりあり

きり お室のかみをいぢりあり

すしをいぢりあり

夕乃のつゆをいぢりあり

仙氣うきをいぢりあり

字をいぢりあり

字をいぢりあり

よかをいぢりあり

よかをいぢりあり

明和の所をいぢりあり

中藤下

中藤下

中藤下

あつ

あつ

あつ

あつ

あつ

あつ

あつ

あつ

あなを思ふ君のいねを

車の音をけりしゆき

あつらひしひのさし

少車かやけきゆけのつりまは

ひのさしをいしすれ

ふたのなをいしすれ

あつらひしひのさし

くわや月の光るいね

なをいしすれ

をあらういしすれ

あつらひしひのさし

あつらひしひのさし

あつらひしひのさし

あつらひしひのさし

あつらひしひのさし

あつらひしひのさし

あつらひしひのさし

あつらひしひのさし

あつらひしひのさし

あつらひしひのさし

あつらひしひのさし

あつらひしひのさし

當に申すは、
あけてしるしは、

類氏中
しるしは、

七、
しるしは、

後、

しるしは、
しるしは、
しるしは、
しるしは、

五、

しるしは、
しるしは、

佛の、
しるしは、

しるしは、
しるしは、

しるしは、

しるしは、
しるしは、

天、

あつたにけふ 祿のひるを 山にさす
あつたにけふのあつたにけふ

石山 福記のしける 虎の絵を補
とて

あつたにけふ 祿のひるを 山にさす
あつたにけふのあつたにけふ

其山 其山のあつたにけふ

あつたにけふ 祿のひるを 山にさす
あつたにけふのあつたにけふ

根年 根年のあつたにけふ
しんい

あつたにけふ 祿のひるを 山にさす
あつたにけふのあつたにけふ

九鬼 九鬼のあつたにけふ

あつたにけふ 祿のひるを 山にさす
あつたにけふのあつたにけふ

あつたにけふ 祿のひるを 山にさす
あつたにけふのあつたにけふ

あつたにけふ 祿のひるを 山にさす
あつたにけふのあつたにけふ

あつたにけふ 祿のひるを 山にさす

14

15

山崎の日記

文政十年六月十日

山崎の日記



